

## (8) 子育て施策

### 結果のポイント

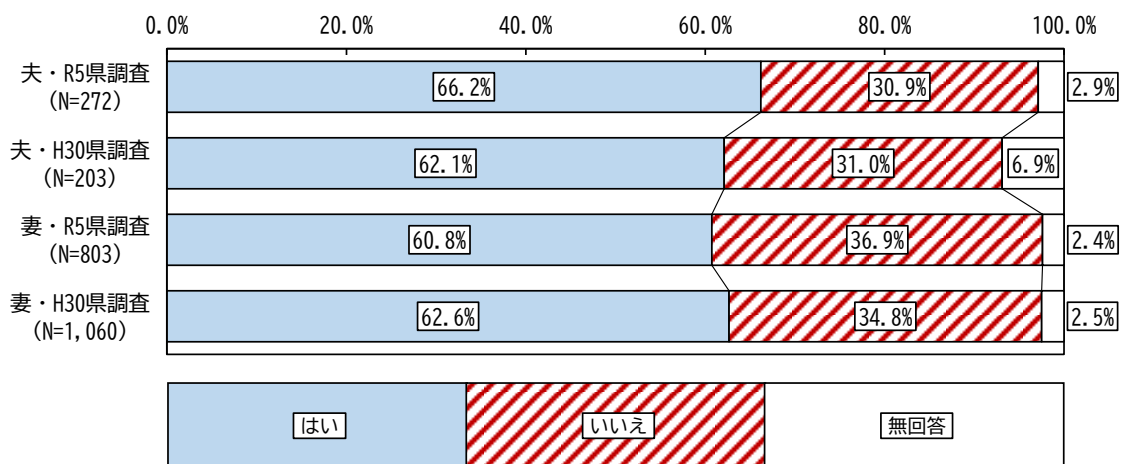
- 夫婦ともに奈良県の子育て環境を約6割が評価している。
- 「緑が多いなど自然環境がよいから」「買物など日常の生活環境が整っているから」などが評価され、「子育て支援サービスが充実していないから」は非評価の要因となっている。
- 「子どもに対する医療制度の充実」「保育所等の保育サービスの充実」「親子の仲間づくり」は過半数が評価しているが、「所得の向上」「男性の育児休業・休暇取得の推進」など経済施策や就労環境に満足していない割合が約7～8割に上る。
- 前回調査から男性の育児休業・休業をとった方がいいと思う割合は夫婦ともに上昇している。ただし、とった方がいいと思う割合は夫より妻の方が低い。妻の取らない方がいいと思う理由は、「収入が減り、経済的負担が大きくなる」「育児の負担軽減につながらない」などが主な理由である。
- 男性の育児休業・休業促進にあたり、「職場の理解を増進し、取得できる雰囲気醸成すること」「育児休業・休業中の給与を維持する制度」「同僚職員への負担軽減」などが求められている。

### ① 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところか

奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思うかどうかについては、「はい」が夫で66.2%、妻で60.8%と、夫の方が5.4ポイント高い。

前回調査と比べると、大きな変化はみられない。

図表 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところか

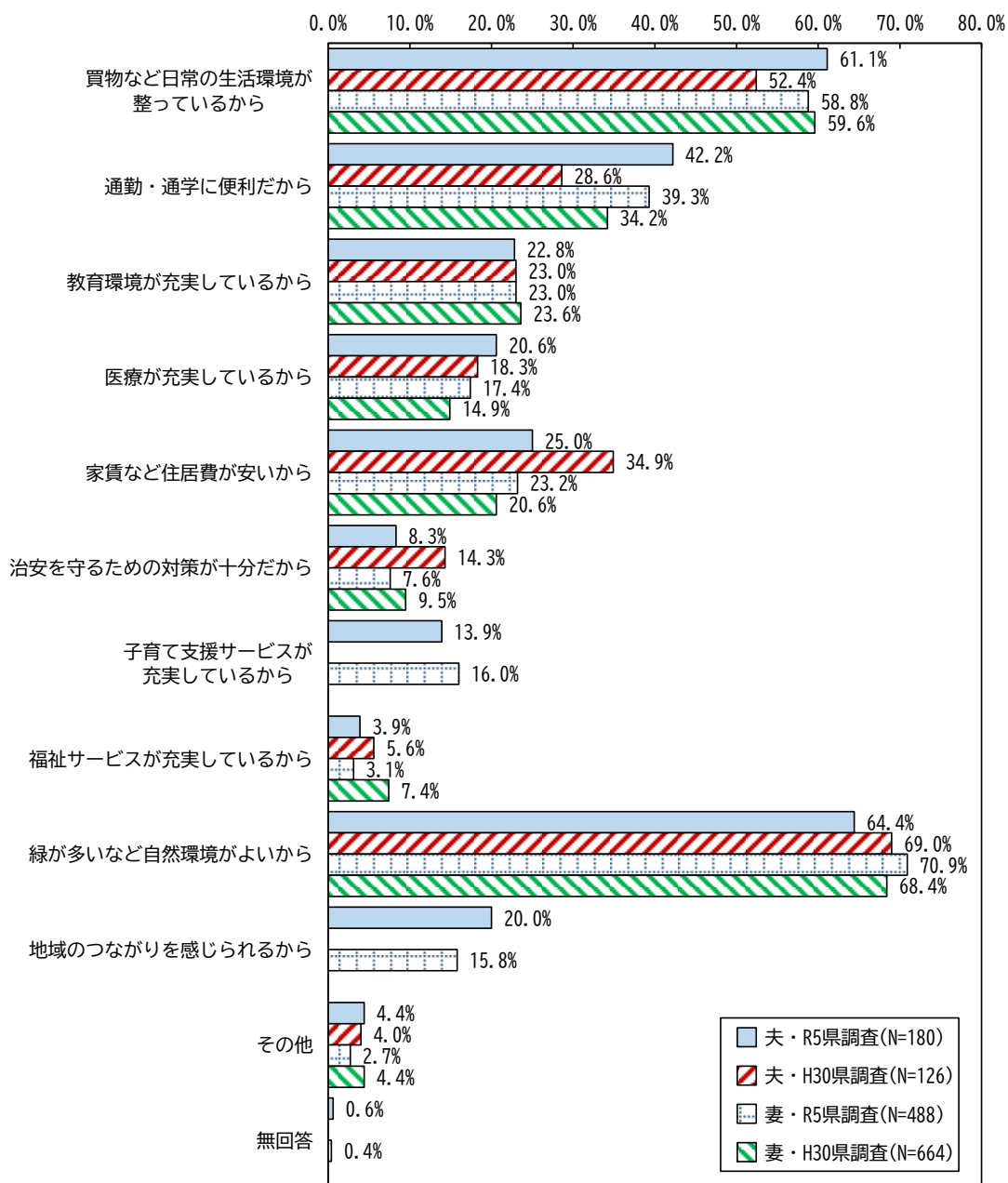


## ② 結婚して子どもを子育てやすいと思う理由

結婚して子どもを子育てやすいと思う理由をみると、「緑が多いなど自然環境がよいから」が夫で 64.4%、妻で 70.9%と最も多く、次いで、「買物など日常の生活環境が整っているから」が夫で 61.1%、妻で 58.8%、「通勤・通学に便利だから」が夫で 42.2%、妻で 39.3%となっている。

夫と妻を比べると、「緑が多いなど自然環境がよいから」は妻の方が 6.5 ポイント高く、「地域のつながりを感じられるから」は夫の方が 4.2 ポイント高い。

図表 結婚して子どもを子育てやすいと思う理由



※「子育て支援サービスが充実しているから」「地域のつながりを感じられるから」は今回調査からの新規項目

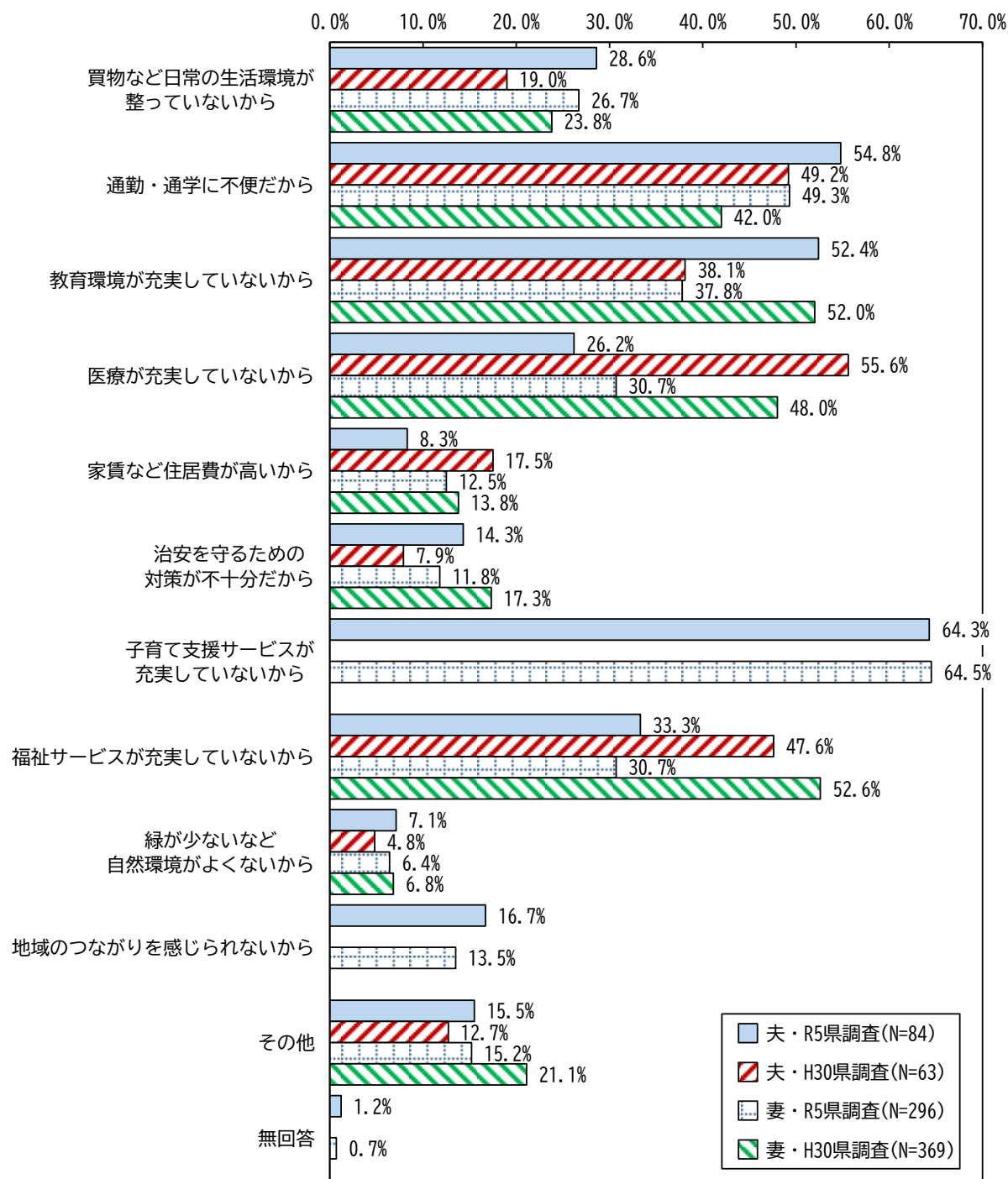
※H30 県調査は無回答の掲載なし

### ③ 結婚して子どもを子育てやすいと思わない理由

結婚して子どもを子育てやすいと思わない理由をみると、「子育て支援サービスが充実していないから」が夫で 64.3%、妻で 64.5%とほぼ同程度で最も多く、次いで、「通勤・通学に不便だから」が夫で 54.8%、妻で 49.3%、「教育環境が充実していないから」が夫で 52.4%、妻で 37.8%となっている。

夫と妻を比べると、夫の方が「教育環境が充実していないから」で 14.6 ポイント、「通勤・通学に不便だから」で 5.5 ポイント、妻より高くなっている。

図表 結婚して子どもを子育てやすいと思わない理由



※「子育て支援サービスが充実していないから」「地域のつながりを感じられないから」は今回調査からの新規項目

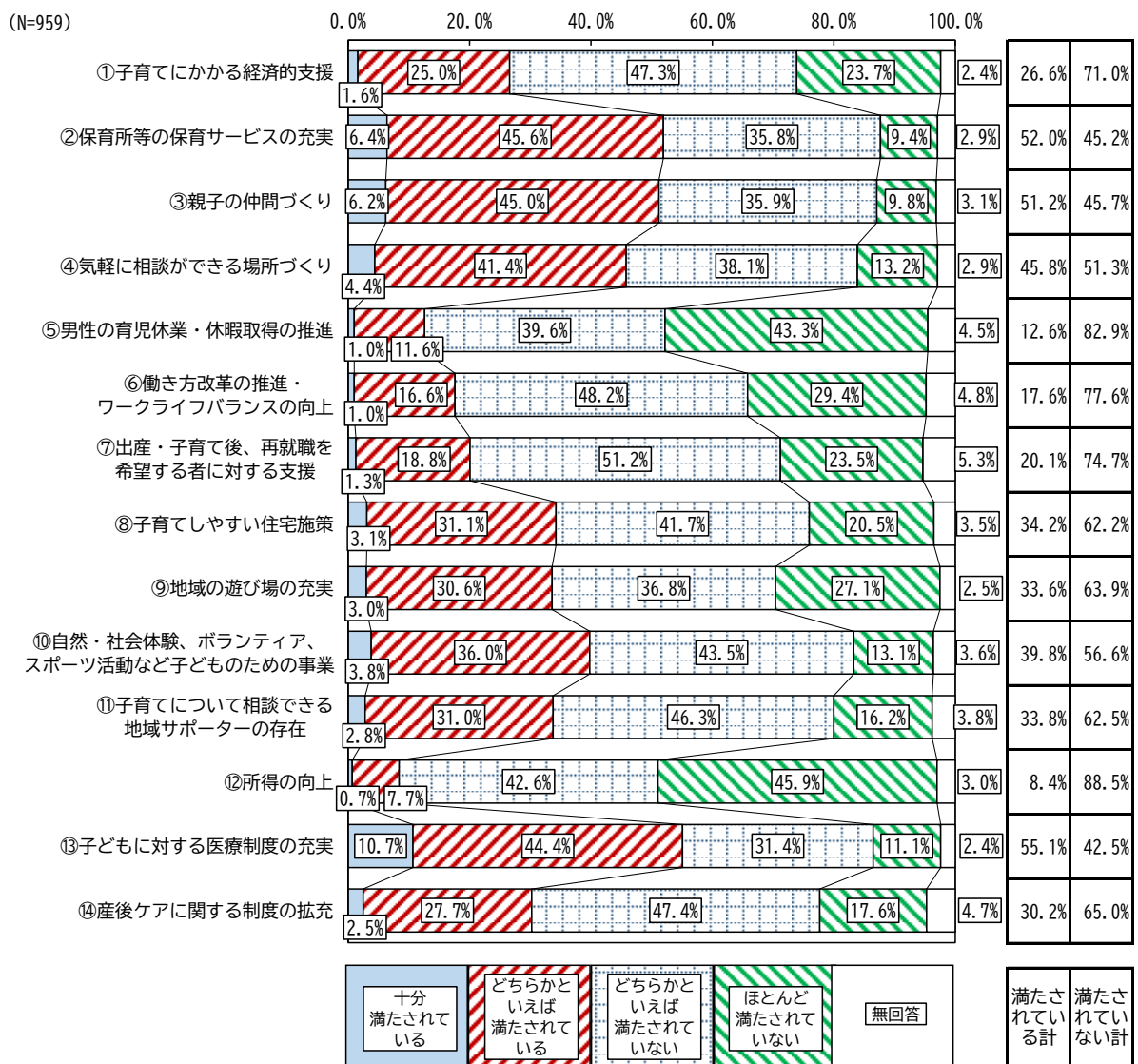
※H30 県調査は無回答の掲載なし

#### ④ 子育て支援に関する満足度

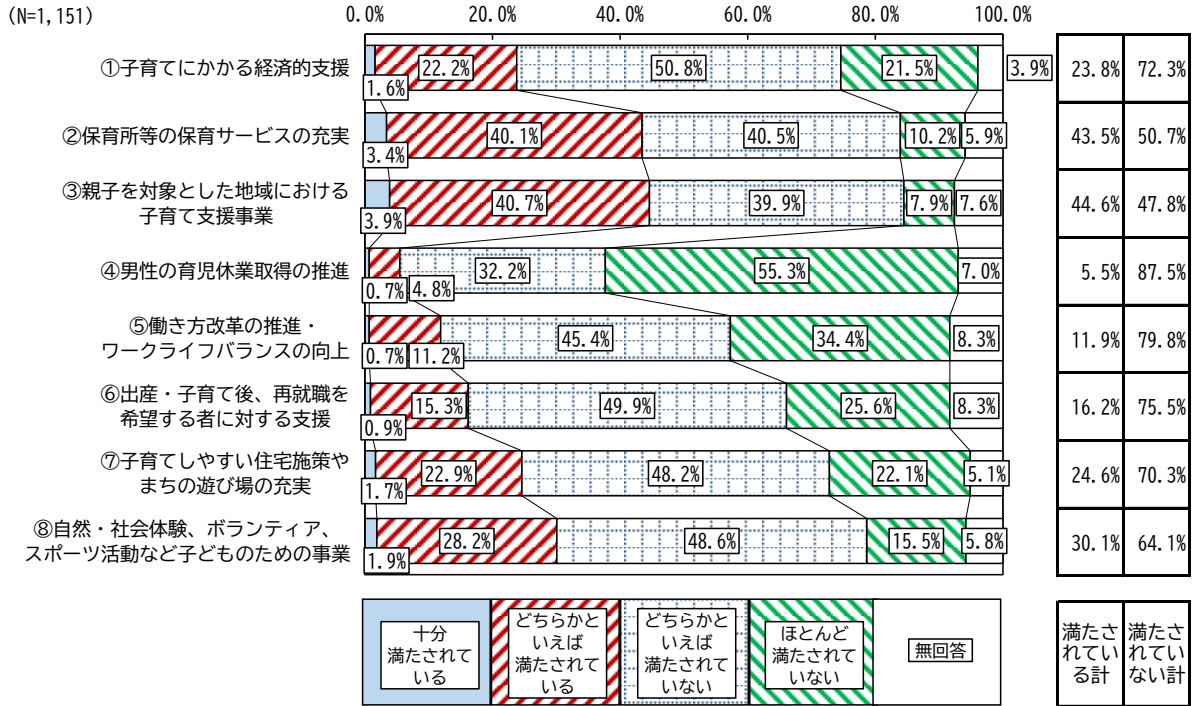
「十分満たされている」と「どちらかといえば満たされている」の割合の合計（＝満たされている計）をみると、「子どもに対する医療制度の充実」が55.1%で最も多く、次いで、「保育所等の保育サービスの充実」が52.0%、「親子の仲間づくり」が51.2%、「気軽に相談ができる場所づくり」が45.8%となっている。前回調査と比べると、いずれも満たされている計は上昇している。

一方、「ほとんど満たされていない」と「どちらかといえば満たされていない」の割合の合計（＝満たされていない計）は、「所得の向上」が88.5%で最も多く、次いで、「男性の育児休業・休暇取得の推進」が82.9%、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」が77.6%、「出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」が74.7%となっている。

図表 子育て支援に関する満足度



図表 子育て支援に関する満足度 (H30 県調査)

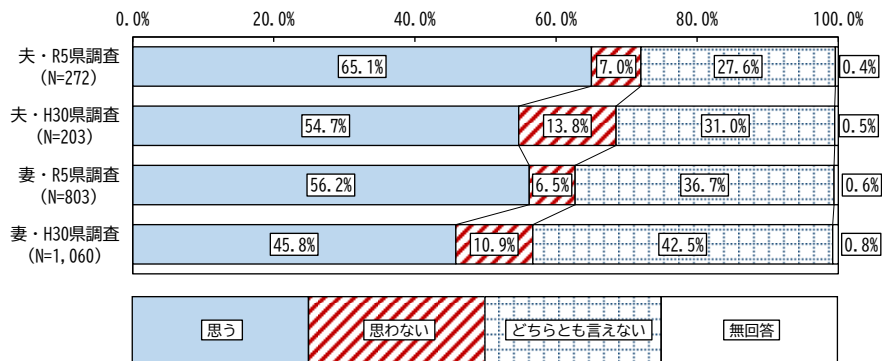


⑤ 父親が育児休暇・休業をとることについての考え

父親も育児休暇・休業をとった方がいいと思う人は、夫で 65.1%、妻で 56.2%と、夫の方が 8.9 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、とった方がいいと思う人は、夫、妻ともに 10.4 ポイント上昇している。

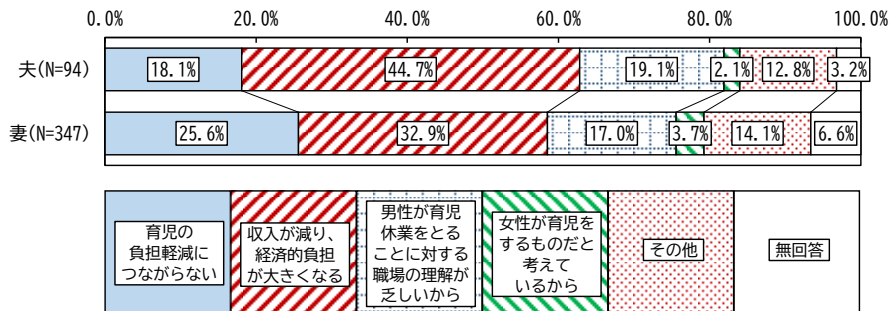
図表 父親が育児休暇・休業をとることについての考え



⑥ 育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由

育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由をみると、夫・妻とも「収入が減り、経済的負担が大きくなる」が最も多いが、夫で44.7%、妻で32.9%と、11.8ポイントの差がある。次いで、夫では、「男性が育児休業をとることに対する職場の理解が乏しいから」が19.1%で続き、妻では「育児の負担軽減につながらない」が25.6%となっている。「育児の負担軽減につながらない」は、夫より妻の方が7.5ポイント高い。

図表 育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由



⑦ 男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策

男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策をみると、「職場の理解を増進し、取得できる雰囲気醸成すること」が75.4%で最も多く、次いで、「育児休暇・休業中の給与を維持する制度」が61.6%、「同僚職員への負担軽減」が57.9%となっている。

図表 男性の仕事と子育ての両立可否別・男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策

